

数値目標の進捗状況と今後の方向性について

基本方針		指標(目標年度:長期:令和12年度/短期:令和6年度)		目標数値	4年度実績	5年度実績	目標数値の決め方 (長期:目標設定根拠/短期:長期目標との関連性)	目標数値の根拠となる調査	現状分析と今後の方向性
1	地域におけるスポーツ・レクリエーション活動の振興	長期目標	週1回以上運動・スポーツをする市民(18歳以上)の割合	75%以上	70.5%	71.3%	広島市スポーツ振興計画(以下「振興計画」という。)改定時の目標(70%以上)を平成31年度に達成したため、当時の目標から5ポイント上方修正した数値を、引き続き長期目標として設定した。 【実績:71.9%(平成31年度)】	広島市市民意識調査	【現状分析】※調査データは別紙1表1-1～1-5のとおり ○ 令和5年度市民意識調査(以下、「市民意識調査」という。)で、「週1回以上スポーツを行う」と回答した市民の割合は、別紙1表1-1のとおり71.3%(前年比0.8ポイント増加)であり、これは、別紙1表1-5のとおりスポーツ庁が毎年行っているスポーツの実施状況等に関する世論調査(以下、「国の調査」という。)における52.1%(前年比0.3ポイント減少)を上回っている。
		短期目標	1年間に一度も運動・スポーツをしない市民(18歳以上)の割合	15%以下	17.3%	16.5%	運動・スポーツをしない市民を減らし、運動スポーツ実施率の向上に繋げる。 過去の実績から毎年1.2～1.3ポイント減らすことを目標とした。 【実績:20.0%(平成30、31年度平均)】	広島市市民意識調査	○ 市民意識調査では、全世代の中で最も「週1回以上スポーツを行う」市民の割合が高いのは18・19歳の79.5%であり、最も割合が低いのは40歳代の67.9%である。週1回未満の方のスポーツの実施を妨げている要因については、別紙1表1-4のとおり70歳未満では「時間がとれない」が最も高く、70歳以上では「興味がない」が最も高くなっている。 ○ 市民意識調査で、「運動・スポーツをまったくしていない」と回答した市民の割合は、別紙1表1-3のとおり16.5%であり、昨年度の17.3%よりも0.8ポイント減っている。年代別に見ると18・19歳の10.3%が最も低く、60歳代の19.0%が最も高くなっている。 【今後の方向性】 ○ 普段あまりスポーツをしない人や初心者に向けて、市ホームページや「ひろしま市民と市政」などの広報紙等を活用し、各スポーツ施設で実施する誰もが参加できるスポーツ教室等を幅広く周知することで、スポーツをするきっかけづくりに努める。 ○ 週1回未満しかスポーツを実施していない方について、その要因は、別紙1表1-4のとおり70歳未満の世代では、「時間がとれない」ことが最も多く、また、30歳代から50歳代の子育て世代では、「お金がかかる」ことが2番目に多かった。そのため、日常生活の中で行える通勤時や買い物時などの時間や隙間時間を活用したウォーキングや、積極的な階段の利用などの「ながら運動」等を、関係部局と連携して周知していく。 ○ 70歳代以上で最も多く、全体でも2番目に多い要因である「興味がない」に対して、スポーツに興味を持ってもらえるよう、高齢者が地域との関わりを持ちながら、健康づくりや介護予防に主体的に取り組める「高齢者いきいき活動ポイント事業」等を効果的に活用する支援のほか、「広島広域都市圏ポイント」等の広島市のスポーツ施設への導入によるスポーツと地域経済や地域活動を絡めつつ、スポーツに興味を持たせる環境づくりに努める。
		長期目標	1年間で運動・スポーツをささえる活動を行ったことがある市民(18歳以上)の割合	21%以上	17.8%	—	振興計画の数値目標にはスポーツを「ささえる」関係の項目がなかったため、新たに設定した。 平成21年度から平成31年度の約3ポイント増と同じ上げ幅を目標とした。 【平成31年度実績9.1%(広島市スポーツに関する意識調査)】 令和4年度実績が目標値に達成したことから、同様に実績値の約3ポイント増を新たな目標とした。 【令和4年度実績17.8%】	広島市市民意識調査 (この指標の調査は、偶数年の実施のため、令和5年度調査なし。)	【現状分析】※調査データは別紙1表2-1～2-2のとおり ○ 新型コロナウイルスの影響により減少していたスポーツイベントボランティアの派遣人数及び派遣回数、別紙1表2-1のとおり、令和5年は派遣人数3,075人、派遣回数98回であり、昨年の派遣人数2,698人、派遣回数96回をいずれも上回っており、概ねコロナ前の水準(平成31年実績:派遣人数3,488人、派遣回数113回)に戻りつつある。 ○ 本市のスポーツイベントボランティアの登録者数は、別紙1表2-2のとおり概ね350人程度(直近3年平均)で推移している。 【今後の方向性】 ○ サンフレッチェ広島本拠地が旧スタジアムから入退場ゲートが少ない新スタジアムとなったことにより、派遣人数が減少しているものの、引き続き、スポーツを支えるボランティアの確保に努めるとともに、参加を希望するボランティアの活躍機会を創出するため、カーブやサンフレッチェ広島以外の競技関係団体等と連携して、幅広い分野のスポーツに携われる環境づくりに努める。
		短期目標	広島市スポーツイベントボランティアの1年間の派遣人数	延べ3,700人以上	2,698人	3,075人	スポーツイベントボランティアの派遣人数が増えることで、市民の運動・スポーツをささえる活動のボランティアへの関心を高めることに繋がる。 過去の実績から毎年100人増やすことを目標とした。 【実績:3,376人(平成29～31年度平均)】	スポーツ・サポート・センター資料 (「公財」広島市スポーツ協会事業)	

2	学校における体育・スポーツの充実	長期目標	全国体力・運動能力、運動習慣等調査の結果において体力合計点の全国の平均値を 100 とした際の広島市の割合	103 以上	99.3 小学生 98.9 中学生 99.7	98.6 小学生 98.2 中学生 99.0	振興計画の数値目標である種目数から各種目の成績の合計点に変更した。都道府県の10位以内相当となることを目標とした。 【実績：小学生101.0、中学生101.9(平成29～31年度平均)】	全国体力・運動能力、運動習慣等調査(スポーツ庁)	【現状分析】 ○ 令和5年度の広島市の体力合計点は、令和5年度の全国平均値と比較すると、小・中学校男女ともに下回っている。また、令和4年度の広島市の平均値と比較すると、小・中学校男子が横ばい、または、上回っており、小・中学校女子は下回っている。 ○ 「1週間の総運動時間が420分以上の児童生徒の割合」は、本市令和4年度と比較すると、小・中学校男女ともに下回っているが、令和5年度の全国平均値と比較すると、小学校では、男女ともに上回っており、中学校では男女ともに下回っている。また、本市平成31年度と比較すると小・中学校男女ともに下回っている。 ○ 「スクリーンタイムが2時間未満の児童生徒の割合」は、本市令和4年度と比較すると、小学校では、男女ともに下回っているが、中学校では、男女ともに上回っている。令和5年度の全国平均値と比較すると、小学校では、男女ともに上回っており、中学校では男女ともに下回っている。本市平成31年度と比較すると小学校女子と中学校男女ともに下回っている。 ○ 「朝食を毎日食べると答えた児童生徒の割合」は、本市令和4年度と比較すると、小・中学校ともに下回っている。令和5年度の全国平均値と比較すると、小学校男子と中学校男女ともに上回っており、小学校女子は下回っている。本市平成31年度と比較すると小・中学校男女ともに下回っている。 【今後の方向性】 ○ 推進体制の構築について - 全国体力・運動能力調査の学校質問紙では「調査結果を踏まえた取組」や「体育・保健体育の授業外での体力向上を図る取組」ができていない学校が一定数あり、各校の体力向上に向けた推進体制の構築が急務であることから、自校の重点的に取り組む課題を明らかにし、年間を通じて計画的に取り組むことを目的に教育委員会が「体力向上推進計画書」フォーマットを作成し、それらを活用して、各学校が組織的に体力向上の取組を推進することができるようにする。 - 各学校の授業改善や運動習慣の定着に向けた取組が進むよう、教育委員会が指定校の体力向上に向けた取組を閲覧できるGoogleクラスルームを開設し、小学校の体力づくり推進リーダーや中学校の保健体育科教員を対象に指導助言を行う。 ○ 授業改善について - 各学校の体力の課題に応じた授業改善の取組の推進に向け、引き続き、小学校の体力づくり推進リーダーや中学校の保健体育科教員を対象に、「体力アップ運動事例集」の活用方法等を伝達する実技研修会を行う。 ○ 運動習慣の定着について - 各学校の体力の課題に応じた体育授業外で取組の推進に向け、小学校の体力づくり推進リーダーや、中学校の保健体育科教員を対象に、小中学校の指定校で成果のあった取組を体力づくり講演会を通じて、全校に普及する。 ○ 生活習慣の改善について - 朝食欠食やスクリーンタイムの増加は、体力・運動能力の発達のみならず、健康的な生活に多大なる影響を与えることが危惧されることから、引き続き、指定校において、生活リズムカレンダー等を活用したり、毎月10日、10オフ運動を実施したりするなど、児童生徒の生活習慣の改善を目指した取組を行うとともに、その取組の成果や課題をホームページ等で家庭に発信する等、家庭の協力を促す取組を行い、成果を検証し、全校に普及していく。
---	------------------	------	---	--------	---	---	---	--------------------------	---

		短期目標	運動やスポーツが好きだと思 う児童生徒の割合	小学生	92% 以上	89.7%	89.5%	運動やスポーツが好きだと思 う児童生徒が増えるこ とにより、運動・スポーツに取り組む児童生徒が増え、 全国体力・運動能力テストの結果に繋がる。 小学生は国のスポーツ基本計画の目標の92%を、中 学生は小学生と同等の上げ幅の目標とした。 【実績：小学生90.8%、中学生85.4%(平成29～31年度平 均)】	全国体力・運動能力、運 動習慣等調査(スポーツ 庁)	【現状分析】 ○「運動やスポーツをすることが好き・やや好き」と回答した児童生徒は、小学校男子が 93.3%(92.9%)、小学校女子が85.6%(85.7%)、中学校男子が90.1%(89.4%)、中学校女 子77.3%(76.5%)となり、全国平均値と比較すると、小学校男子と中学校男女ともに上回 っており、小学校女子は下回っている。※()内は全国平均値 また、「1週間の総運動時間60分未満」の児童生徒については、小学校男子が7.9% (9.0%)、小学校女子が15.6%(16.3%)、中学校男子が11.7%(11.0%)、中学校女子が 25.9%(24.9%)となり、全国平均値と比較すると、小学校男女とも割合が低く、中学校では 男女とも割合が高かった。※()は全国平均値。 【今後の方向性】 授業改善や運動習慣の定着に係る取組を実施し、運動やスポーツが好きだと思 う児童生徒の割合の増加につなげていく。 ○ 授業改善について 指定校において成果のあった授業改善の取組を全校に普及する。 ○ 運動習慣の定着について ・ 指定校において成果のあった運動習慣の定着の取組を全校に普及する。 ・ また、トップス広島に所属する各スポーツチームが作成した「一人でもできる運動」動画 を、学校のタブレットでいつでも活用できるようにする。
3	競技力の 向上	長期目標	国民体育大会に出場 する広島県選手に占め る広島市選手(ふるさと 選手を含む。)の割合 (令和6年度途中か ら、国民体育大会から 国民スポーツ大会に改 称)		65% 以上	53.0%	60.1%	振興計画の数値目標が未達成だったため、引き続き 長期目標として設定した。	(公財)広島県スポーツ 協会資料	【現状分析】※調査データは別紙1表3のとおり ○ 令和5年度の広島市選手の割合は60.1%で、前年度比で7.1ポイント増加している。内訳 は、成年が73.5%、少年が45.1%で、前年度比で、成人が19.7ポイント増加し、少年が6.7ポイ ント減少している。増加幅が大きかった成人男子については、令和4年度に出場しなかつ たバレーボール及び軟式野球が令和5年度は出場し、それぞれ市内在住者割合が100% であったことなどが要因であり、減少の幅の大きかった少年男子は令和4年度に出場がな かったソフトボールに令和5年度は出場しており、出場者13人のうち広島市選手が1人であ ったことなどが主な要因となっている。 【今後の方向性】 ○ 広島市スポーツ協会では、将来、国体へ出場するジュニア選手(小中学生)を育成するこ とを目的に、競技団体と連携した「強化指定選手発掘・育成事業」「国民体育大会等を目 指すジュニア選手育成事業」等を実施しており、令和4年度においては、「強化指定選手発 掘・育成事業」に319人、「国民体育大会等を目指すジュニア選手育成事業」に1,043人が 参加している。令和4年度は、過去に当事業に参加した者から190人が全国規模の大会に 出場しており、一定の成果が表れているため、今後も広島市スポーツ協会加盟競技団体 との更なる連携強化の上、同事業を継続して実施していく。
		短期目標	運動部やスポー ツクラブに入っ ている児童生徒の 割合	小学生	58% 以上	53.7%	54.7%	運動部やスポーツクラブに入っている児童生徒が増 え、活動が活発になることにより、競技力の向上が図ら れ、将来国体に出場できるような選手の育成に繋がる。 過去の実績から毎年1ポイントずつ増やすことを目標 とした。	全国体力・運動能力、運 動習慣等調査(スポーツ 庁)	【現状分析】※調査データは別紙1表4-1、4-2のとおり ○ スポーツ庁が毎年行っている全国体力・運動能力、運動習慣等調査(以下、「全国体力 等調査」という。)から算出したデータによると、本市においては、運動部やスポーツクラブ に入っている割合は、小学生は54.7%(57.5%)、中学生は70.6%(69.5%)であり、全国平均 値と比較すると、小学生は平均以下であり、中学生は平均以上であった。 ※()内は全国平均値 ○「運動やスポーツをすることが好き・やや好き」と回答した児童生徒は、小学校男子が 93.3%(92.9%)、小学校女子が85.6%(85.7%)、中学校男子が90.1%(89.4%)、中学校女 子77.3%(76.5%)となり、全国平均値と比較すると、小学生男子と中学生男女は上回っ ているが、小学校女子は平均以下であった。※()内は全国平均値

				中学生	77% 以上	72.3%	70.6%			【今後の方向性】 ○ より多くの競技未経験者や競技初心者が、自分のやってみたいスポーツに触れる機会が得られるよう、スポーツ協会や競技団体等で実施している初心者向けスポーツ体験教室の広報等を行い、運動部などに入るきっかけづくりに努める。 ○ 国が示す部活動の地域移行に関するガイドラインに基づき、本市では、地域人材の確保や費用負担の在り方、運営団体の確保などの課題に総合的に取り組むモデル事業を実施している。今後、学校の部活動から地域での活動へ移行された際は、適切な指導の下で、誰もがやりたいスポーツに関われる環境づくりに努める。
4	まちの活力創出に向けたスポーツの振興	長期目標	1年間にスポーツの試合・大会等(※)を直接観戦した市民(18歳以上)の割合 ※ 全国規模のスポーツリーグの試合又は国際的・全国規模のスポーツ大会とする。	50% 以上	40.8%	46.1%	振興計画の数値目標が未達成のため、引き続き長期目標として設定したが、トップスに限らず、スポーツ大会等の観戦者も増やす必要があることから、一部修正した。	広島市市民意識調査	【現状分析】※詳細は別紙1表5-1、5-2のとおり ○ 市民意識調査によると観戦率は46.1%となっており、年代別に分析すると20歳代が全世代の中で最も高く、53.7%であり、70歳代が全世代の中で最も低く、34.1%である。 ○ チーム別ではカープの観戦が40.1%で最も高く、次にサンフレッチェの観戦が8.1%、市内で開催される国際的・全国的なスポーツ大会が6.7%と続いている。サンフレッチェ広島については、令和5年度は広島広域公園のホームスタジアムとしての使用が最終年度であったこともあり、昨年度の5.5%から2.6ポイント上昇し、8.1%となっている。 ○ ドラゴンフライズについては、新リーグ(Bプレミア)参入条件である「平均入場者数4,000人」の達成を目指し、カープとのコラボ月間等の企画で集客を図ったこともあり、昨年度の2.2%から1.7%ポイント上昇し、3.9%となっている。 ○ カープの観戦はどの世代でも30%以上であったが、サンフレッチェ広島の観戦は40歳代までは平均12.3%、50歳代ではその半分程度の平均6.2%となっており、年齢が高くなるにしたがい、観戦割合が低くなっている傾向がある。	
		短期目標		46% 以上	40.8%	46.1%	令和12年度に50%以上を達成するためには、平成31年度を基準とすると毎年0.6ポイント増やす必要があることから、令和6年度の目標を46%以上とした。 【実績:43.9%(平成31年度)】	広島市市民意識調査	【今後の方向性】 ○ 本格的なスポーツを観戦する機会を作るため、国際大会の開催・誘致などに取り組む。 ○ 東区役所ではイズミメイプルレッズ、南区役所ではJTサンダーズ、西区役所ではドラゴンフライズ、ヴィクトワール広島等、地域に密着したチームを支援しており、引き続き、各区役所と連携したトップス広島加入団体の活動の支援や広報等に努める。 ○ 幅広い世代が様々なスポーツに親しむことができるように、「トップスポーツ観戦ラリー」のような色々なスポーツを観戦する動機付けにつながるイベントの創出に努める。	